

西日本旅客鉄道労働組合

本部 大阪府北區芝田二丁目一丁目一八番一八号 (西阪急ビル9F) TEL NTT(06)6375-1171 FAX JR(06)6375-1171

大きく飛躍する春闘に!!

藤森委員 (京都地方本部)

●福知山線列車事故から18年目となり、湖西線近江舞子駅除雪作業員触車死亡事故から15年が経過した。本年も



●組織について、京都地本の支部分会、青年女性委員会が一丸となり、2022年度の新人社員及び10月期、11月期の中途採用者の新人組合員の全員加入を果たすことができました。

●政治について、昨年は、JR西労組出身である滋賀県三日月知事の3選を勝ち取ることができた。

今年春は統一地本選挙がある。梶原議員は、4年前、やる気と元気で、初当選を果たした。その後、チーム京都地本として、大伴聖氏と連携し、長岡京市議会でも意見書が全会一致で可決された実績もある。雪害の対応も先頭に立って行動された。必ず2期目の当選を果たせるよう、京都地本一丸となって取り組む。

●春闘について、この約3年間で我々はジャンプをするため、一旦屈んで大きく飛躍する準備をしてきた。もうこれ以上は屈めない。ベア要求、年間臨給での50要求の意義を会社に訴えていただき、満額回答を強く要請する。

●2月25日に、3年ぶりとなる「第26回京都駅ビル大階段駆け上がり大会」が開催される。春闘勝利の機運を高める大会としたい。

●「次期ダイヤ改正における「奈良線の複線化」「うめきた地下線」だが、大工所、大電所組合員が、36協定に定める特別延長長時間530時間ギリギリの状況で、業務を行っている。

大電所大工所が求めるエリア手当やプロジェクト遂行手当二時金を是非ともお願

いする。

安全を基礎に

総団結で未来を切り拓こう!

年間臨給5.0箇所を掲げ

反転攻勢に転じる

JR西労組は、2月3日(金)、大阪リバーサイドホテルにおいて、「第41回中央委員会」を開催し、コロナ感染症対策を講じた会場に、委員、来賓、執行部、傍聴者など、約200名が参集した。議長団に、須原委員(神戸地本)、山根委員(広島地本)を選出し、議事が進められた。冒頭、上村中央執行委員長が、「安全確立」「23春闘」「離職」「政治」について、課題提起を行なった。特に、23春闘について、「年間臨給5.0箇所を掲げ、反転攻勢に転じる」との力強く述べ、JR西日本連合の中心的立場として、JR西日本グループ全体の底上げを図ることできるよう、支援していくとの決意を表明した。全体質疑では、各地本、総支部から、真摯で切実な声が上がった。その声を受け、羽野書記長が、総括答弁で、「失ったものは取り戻す」と、組合員の思いを表明し、全ての議事を満場一致で承認し、上村委員長の団結ファンパレードで閉会した。

全体質疑

安全に対して「攻めの保全」を!

今井委員 (岡山地方本部)

●安全について、1月7日に折りの杜、献花行動、1月14日に「安全の集い」を開催し、事故を心に刻む取り組みを行ってきた。

安全考動計画2022を振り返り、次期計画のもと、安全の取り組みをすすめていかなければいけないが、今の会社は設備投資や保全に対する考え方、物事の判断が対処療法的になっていないか。

事実、今年度は部内原因

による輸送障害が増加している。先日の雪害においても、事前に気象情報を把握し、対外的には列車乱れの恐れがあることをアナウンスしていたものの、列車運行を続け、結果、社会から非難を受けた。

大きな事故や事象が発生する前に、安全に関しては、対処療法ではなく、「攻めの保全」をしなければならぬと考えるが、本部の考えを



お聞かせください。

●組織の大単位化に対し、業務量は変わらず、会議が増えているといった声が増えている。これらの課題は、統括本部内だけの問題ではなく、本部本社間で議論いただく内容でもある。

●23春闘について、異次元の物価上昇に加え、JR西日本のご利用実態は、コロナ前の9割に、未だ届かない。

中央闘争委員会にはべ

ア3,000円、年間臨給5.0カ月の満額回答に向けて、「若手社員の将来への希望を取り戻すため」「K字回復の好況な他産業にしがみついていくため」として何より、「組合員の傷んだ生活を改善するため」にも、本春闘に取り組んでいただきたい。

4月に控える統地方選

●「新春安全の集い」で、福知山線列車事故(被害者対応



施策後の

会社の具体的なCとAを

小林委員 (本社総支部)

●「新春安全の集い」で、福知山線列車事故(被害者対応

本部で働く若手組合員に、講演をいただいた。会社全体で、事故後入社社員が59%となり、対応本部でも、3割となっている。事故について今一度考える機会となった。

会社員に代わりご被害に遭われた方々の対応を行っている仲間がいることを忘れて

はならない。

●本社間接部門では、近統中統に先立ち、大規模な組織体制見直し要員の削減が実施され、1年半が経過した。本社間接は人員は減少したが業務は減っておらず、むしろ増えており、12月末での長時間労働実績では、前年比14%増で、2020年の本社社員3割削減の組織体制見直し検討時期と比べて、33%増となっている。近統中統の組織改編についても振り返り、軌道修正が必要なので



●組織について、京都地本の支部分会、青年女性委員会が一丸となり、2022年度の新人社員及び10月期、11月期の中途採用者の新人組合員の全員加入を果たすことができました。

●政治について、昨年は、JR西労組出身である滋賀県三日月知事の3選を勝ち取ることができた。

今年春は統一地本選挙がある。梶原議員は、4年前、やる気と元気で、初当選を果たした。その後、チーム京都地本として、大伴聖氏と連携し、長岡京市議会でも意見書が全会一致で可決された実績もある。雪害の対応も先頭に立って行動された。必ず2期目の当選を果たせるよう、京都地本一丸となって取り組む。

●春闘について、この約3年間で我々はジャンプをするため、一旦屈んで大きく飛躍する準備をしてきた。もうこれ以上は屈めない。ベア要求、年間臨給での50要求の意義を会社に訴えていただき、満額回答を強く要請する。

●2月25日に、3年ぶりとなる「第26回京都駅ビル大階段駆け上がり大会」が開催される。春闘勝利の機運を高める大会としたい。

●「次期ダイヤ改正における「奈良線の複線化」「うめきた地下線」だが、大工所、大電所組合員が、36協定に定める特別延長長時間530時間ギリギリの状況で、業務を行っている。

大電所大工所が求めるエリア手当やプロジェクト遂行手当二時金を是非ともお願

いする。